



大学ボランティアセンター 職員セミナー2021 ～コロナ禍における学生の活動支援～

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、私たちの生活は激変しました。多くの大学で2020年度は入学式や大学祭などの行事が中止となり、授業のオンライン化が進みました。キャンパスから学生の姿が消え、学生同士、また学生と教職員との交流の機会が激減しました。当然、課外活動にも大きな影響がありました。

そのような中、大学ボランティアセンターは何ができるのか、何をなすべきか、何をなすべきでないのか？各センターで迷い、悩み、そしてチャレンジしてこられたことと思います。中でも学生スタッフのモチベーション維持やボランティア活動を希望する学生への対応など、コロナ禍での学生の活動支援についての取り組みを共有し、課題や可能性について共に考えたいと思います。

開催日

9/9(木) 13:30～16:30

10(金) 13:30～16:45

@オンライン (Zoom)

定員

各日40名程度

対象

大学ボランティアセンター、サービスラーニングセンター、地域連携センターなど学生・大学の社会貢献活動を推進する部署、プログラムの運営、実践に関わる教職員・開設を検討している教職員・支援を担当されている大学教職員・開設や運営を支援している学外の中間支援組織の方

参加費

9/9(木) 基礎セミナー 4,400円
(JVCA会員は3,960円)

9/10(金) 実践セミナー 4,400円
(JVCA会員は3,960円)

申込

JVCAのHPより申込み
<https://jvca2001.org/>

×切

8/31(火) 17:00

9/9(木)13:30～16:30
基礎セミナー

学生がボランティア活動の参加する意義や大学としてどのようにボランティア活動を支援すればいいのかなど、大学ボランティアセンターの運営に必要な基礎知識を学びます。また、学生ボランティアに対する地域の期待や学生を地域の施設や団体に送り出すにあたり留意しておきたいことなど、ボランティアコーディネーションのポイントについても理解を深めます。

ボラセン紹介では、2つのボランティアセンターへの訪問レポート動画を元に、実際のセンターの雰囲気や、掲示やレイアウトなどもお伝えします。

大学ボランティアセンターの新任担当者の他、今後、センターの設立を検討している大学、設立したばかりの大学の教職員の参加も歓迎します。

(ボラセン紹介)・龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
・同志社大学ボランティア支援室

講師

大谷大学社会学部准教授
赤澤 清孝さん



【講師プロフィール】

1974年兵庫県伊丹市生。阪神・淡路大震災をきっかけに翌年、学生有志できょうと学生ボランティアセンタ(現・ユースビジョン)を設立。学生のボランティア活動支援や団体のマネジメント支援に取り組む。2013年より大谷大学教員。コミュニティデザイン学科所属。著書に「学校ボランティアコーディネーション」(筒井書房、共著)等。

9/10(金)13:30~16:45 実践セミナー

参加にあたって

- ・分科会は第1希望から第3希望までお聞きし、調整します
- ・同じ所属から複数の方が参加される場合でも、一人ずつお申込みください
- ・グループワークを行いますので、一人一台の機器(PC等)でご参加ください

<全体会>13:30~14:10

問題提起:コロナ禍における学生の活動支援 [主催者:筒井のり子(JVCA理事・龍谷大学社会学部教授)]

<分科会>14:20~16:20 ※いずれか1つにご参加いただきます

【分科会1】コロナ禍における学生スタッフの関わりを考える

【分科会2】コロナ禍におけるオンラインでのボランティアプログラムを考える

【分科会3】コロナ禍における学生の対面活動を考える

<全体会>16:25~16:25

各分科会の共有 など ※終了後、17:30まで参加者同士の交流会を予定しています。(自由参加)

分科会1 コロナ禍における学生スタッフの関わりを考える

多くの学生は、大学ボランティアセンターに学生自身の「成長」を求めてやってきます。コーディネーターは、ボランティアの情報を学生に渡すだけでなく、相談に乗り、アドバイスを行い、学生に対して教育的な役割を果たすこともあります。しかも、それは教員とはまた違った立場での関わりです。ここに専門職として関わり方があります。学生と真剣に向き合おうとするほど、コーディネーターには様々な葛藤が生まれ、迷い、悩むことが増えていきます。特にこのコロナ禍では、そういう葛藤が顕著になったように思います。

この分科会では、専門職として学生と向き合い、共に「成長」するためにはどんな視点が必要なのか、昨年度の事例をもとに、皆さんと一緒に考えたいと思います。

話題提供:横関つかささん(立命館大学サービスラーニングセンター)
竹田純子さん(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)

[担当:竹田純子(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)]

分科会2 コロナ禍におけるオンラインでのボランティアプログラムを考える

これまで当然のように実施してきた対面でのボランティアプログラムですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン化を余儀なくされました。どの大学も、この一年、試行錯誤をしながらオンラインプログラムの開発に取り組まれたことと思います。対面で行ってきたことをオンライン化したり、オンラインだからこそできたこともあるかもしれません。オンラインから参加できた人もいないかもしれません。各大学の取り組みを共有し、withコロナ時代に必要なオンラインを活用したプログラムを創る視点について、参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。

事例提供:藤掛素子さん(明治大学ボランティアセンター)
秋田有加里さん(愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター)
岡秀和さん(関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室)

[担当:國實紗登美(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター/JVCA運営委員)]

分科会3 コロナ禍における学生の対面活動を考える

対面でのボランティア活動や対面でのセミナーなど、とにかく“対面”人が集まって、活動して、交流して…が当たり前だった大学ボランティアセンターのプログラム。そんなプログラムが、新型コロナウイルス感染症により中止や延期、開催形態の変更をせざるを得ない状況となりました。オンラインを活用しながらも、それでもリアルならではの良さや価値を大事に、この一年模索を続けてきたと思います。

この分科会では、大学機関が対面活動を開催するにあたって、感染対策や学内の調整等々、参加者同士で事例や葛藤、悩みなどを共有しながら、リアルな場づくりに向けた工夫について、一緒に考えたいと思います。

事例提供:開澤裕美さん(中央大学ボランティアセンター)
齋藤元気さん(東京都立大学ボランティアセンター)

[担当:高橋あゆみ(同志社大学ボランティア支援室/JVCA運営委員)]

主催・問い合わせ

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)
TEL 03-5225-1545 E-mail:jvca@jvca2001.org